

給料分の仕事が出来ますか？



「1万円、2万円、30万円」。さてこれは何を意味しているのでしょうか？。

これはベトナム、中国、日本の現在の一ヶ月間の平均賃金を示しています(日本の平均賃金はもう少し低いと思いますが)。同じ仕事をするのに、ベトナムは約1万円に対して、日本では30万円の賃金を払うこととなります。極めて単純に考えたとき、企業はどこに会社を作った方がよいのでしょうか。誰がみてもその答えは歴然としています。ベトナムでは優秀な人材を月1万円の給料で雇うことができるのに、日本ではあまり使えない者に30万円支払わなくてはならないということになれば経営者は考えてしまいます。企業が日本で一人採用すると人件費が年間200~300万かかってしまうのです。

世界中の企業がより人件費の安い地域に出て行く理由が分かるでしょう。それでもなお経営者は国内での生産を選択しています。そのためには他国ではできないより付加価値の高い製品を日本国内で製作することにより、この差を何とかカバーしているのです。企業にとっては各社員には入社した以上それなりに能力を発揮してもらわないと、こうした厳しい国際競争に勝てません。

皆さんにとってはこんな話はまだ人ごとと思っているかもしれませんが、4月に各企業に入社すれば、その厳しい現実を自分のことと認識せざるを得なくなります。もし自分の勤める企業が倒産すれば、皆さん自身が路頭に迷うこととなります。グローバル経済の進んだ今の世の中で、日本の企業の置かれた状況は皆さんが今考えているような生やさしいものではありません。日本の企業にはもはや余剰人員を抱えるだけの余裕はありません。優秀なベトナム人の30倍の利益を上げるだけの仕事をしなくては、企業に貢献できないのです。こうした自覚を少しでも持ち、それぞれの企業を支える一人として頑張ってもらいたいものです。

無常識な若者たち もっと常識を身につけよ！

企業の人々が学校に対して「生徒たちにもっと常識を身につけさせて欲しい」ということをいわれることがあります。「最近の若者は非常識を通り越して無常識だ」ときわめて辛辣なことをいわれることもあります。「若者があまりにも物事を知らなさすぎる」ということです。これまでいわゆる世の中の常識と思っていたことを、今の若者はほとんど知らず、それで世の中が通用するような天下泰平の気持ちでいられない現実をもっと認識すべきでしょう。

そもそも世の中の常識とは、普段先生方が色々な場面で皆さんに注意をしていることです。そうした注意を素直に受けとめ改めていくことにより身に付いていくはずですが……。そうした注意を聞き流しその場限りのこととしている結果が無常識に陥っているのでしょうか。社会に出て職場で厳しくしつけられようやく身に付いて行くのかもしれませんが、それにしてももっと前に何とかならないのかという思いが企業の人たちの学校に対する願いとなっているのです。



社会に出れば同世代だけで生活することは少ないでしょう。様々な世代と関わる過程で皆さんには様々ないわゆる世の中の常識が求められます。せめて世の中に出る前に、己の無常識さを恥、少しは常識を身につけるよう心がけて欲しいものです。